

平成 20 年 2 月 1 日(木曜日)



【渡辺弘雄】兵庫県トラック協会の取扱部会

取扱部会

まずコスト把握

食品部会と合同研修

(大亀保彦部会長)と食品部会(松村守部会長)

は二十一日、合同で新春荷主懇談会・研修会を開催。百二十人が出席し、

▲業務改善への指針を示す日本ロジファクトリーの青木社長

日本ロジファクトリーの青木正一社長が「荷主と物流事業者の協力関係構築への課題」をテーマに講演した。

の指針を示した。

青木氏は「物流業務の改善には、まず物流コストの把握が必要。注目は受注にある。社内物流費に着目し、受注から納品・返品処理までの業務を改善すれば、トータル物流費の削減につながる」と述べ、取り組みへ

また、燃料価格高騰にあえぐトラック業界の運賃交渉について「気合いと根性だけでは到底乗り切れない。運送原価から赤字を可視化し、荷主の経営トップが判断可能な材料を明確に提示するところが肝要。互いに手を取り合って本音で付き合えるパートナーであれば、赤字の現状を容認するはずがない」と強調した。